

2. テーマ 間の心

自然には間がある。
 自然とは人の力を加えられないものである。
 野を渡る風を待つ間は、初夏のひととき。
 かげった日射しを心待ちする間は、冬の日の昼下がり。
 少しは遅かれと願う満月を待つ間は秋の夜長につながる。

全ての期待と興奮は、この少しの間をはさんで存在する。
 雨を待つ間、晴れを待つ間は心と身を休め、やすらぎのうちに
 次にめぐり来るもっと大きな安心と満足を約束する。

自然のゆらぎとうねりは、間と間をむすびつけ、
 歴史や文化を再生し、厳しい気象を挑戦することなく受け入れ（パッシブ）、
 それを豊かなみのり（ニューテクノロジー）として創出させる。
 打ち捨てられたかの如き種々の素材は、情ある使い手により眠りから覚め、
 その地の恵みと共に、新しい時代を誇らかに演出する。

間の心 は まごころ につながる。
 心あるもてなしは喧騒と多忙で疲れた訪ね人達に
 自然のなかに健やかに漂ういやしの安らぎをもたらし、
 失ったかと思われた感性を再び取り戻させる。
 視線は果てしなく景観をとらえ、天然の香りに浸され、
 快い響きは耳に愉しく、豊かな幸に舌はおののき、
 ふれる手触りが身体をはしる時、全てが心の琴線を鳴らす。

